

# 挑戦する若手とベテランによる 果樹の付加価値販売を支援

県北農林事務所経営・普及部門

常陸太田市は観光果樹産地として知られており、果樹類（ブドウ・ナシ・カキ）は地域を代表する農作物です。当部門では、地域の核となる果樹経営体を育成するため、果樹類の販売力強化に繋がる技術の確立や販促活動、優良品種の生産拡大、若手生産者の組織活動等を支援しました。

## ブドウの高品質生産及び高単価販売支援

県版の病害虫防除例を元に地域の病害虫の発生実態に合わせた常陸太田版防除例を作成して適期防除を指導した結果、良好な果実品質を得ることができました（常陸青龍：一粒重13.8g・糖度17.8度、巨峰：一粒重12.3g・糖度19.0度）。

また、JA常陸常陸太田ぶどう部会青年部が中心となり、イバラキセス（都内のアンテナショップ：写真1）で常陸太田市のブドウPRを行った結果、3日間のブドウフェアで巨峰77房・常陸青龍102房を販売しました（230千円）。ブドウシーズンの到来を告げるイベントとして消費者の評判も良く、比較的高単価（巨峰1,000円/房、常陸青龍1,500円/房）での販売ができたことで、首都圏での販売の可能性が広がりました。



写真1 イバラキセスにおけるブドウフェアの様子



写真2 常陸太田梨部会研究部の仲間

## 県育成の梨新品种「<sup>けいすい</sup>恵水」の生産拡大

「恵水」の収穫可能面積は29aに拡大しており（未成園面積：16a）、栽培全戸（20戸）を巡回し、若木栽培管理と適期収穫を指導しました。指導により、収穫適期の果皮色について理解が進み、適期収穫が可能となりました。収穫量も2.5tにまで増加しました。

部会の研究部である若手生産者らは、高単価で販売できる品種として特に「恵水」に注目しており、見回り会等で栽培技術の研鑽を図りながら、早期に樹冠を拡大する若木育成に取り組んでいます。普及センターでは、ドローンを活用して上空から樹冠形成のイメージをつかむ新しい取組による指導を始めました（写真2：ドローンにより撮影）。

## 「常陸柿匠・星霜柿」のブランド化

JA常陸太田地区柿部会ではカキ品種「大核無」のうち特に高品質の果実を「常陸柿匠・星霜柿」として販売しています。実需の望む品質を維持するため、選果指導と販売店舗での商品説明等の支援を行い、星霜柿491kgを出荷することができました。首都圏への出荷では1,080円/玉と高値で販売されるものもありました（市内での販売：500円/玉）。（写真3）

また、県園芸研究所と連携してポータブル非破壊糖度計による甘渋判定技術の検討を行い、「大核無」の甘渋判定に利用できることを明らかにしました。従来、果実に光を当てて目視で甘渋を判定していたのに対し、瞬時に数値で甘渋を判定できるようになり、効率的で精度の高い選果を可能としました。



写真3 首都圏で販売される星霜柿